

# See you again, Friends!

エミリー・ワセン

Emily Wathen

(英国グロスター・シャー州  
ウーラストン出身)

マックスウェル・トタロ

Maxwell Totaro

(米国オレゴン州  
ポートランド市出身)

国際交流員のエミリー・ワセンさんとマックスウェル・トタロさんが8月で任期を終えました。2人から町民の皆さんへお別れのメッセージが届きましたのでご紹介します。

皆さんへばなー

ワセンエミリーです。2019年8月から今年の8月まで鶴田町の国際交流員として勤めました。

もともとイギリスの小さい田舎町出身で、小さい時から都会の生活がずっと憧れでした。都会の大学に入って、日本の福岡市で一年間留学して日本を初めて経験しました。卒業後はイギリスの首都、ロンドンで勤めましたが、やっぱり福岡での生活が楽しくて忘れられなくて、若いうちにもう一回その生活を経験できるように、国際交流員の募集に申し込んで、「九州にしてください！」と希望を出しました。

でも真逆の青森県に来るなんて思いませんでした。都会での生活に慣れすぎて、車がないと生活できない街に行くのがとても不安でした。雪の運転は特に難しかったですがなんとかできるようになりました。最初の6ヶ月間でどんどん鶴田の生活に慣れてきた頃、コロナ禍が始まりました。

でも鶴田で生活して田舎の魅力に改めて気づきました。コロナ禍になって、イギリスの家族や都会の友達が普通の生活ができず困っているのを見て、私はここにいてよかったと感じました。イギリスは山の少ない国なので、毎日美しい岩木山の景色を見られて、感動しました。興味深い青森の祭りや文化、そして日本でしか経験できない農業体験も楽しみました。鶴田の採れ立てのリンゴやスチューベンの美味しさを知ってびっくりしました。いつも笑顔で挨拶してくれた鶴田の子供たちがいつも英語の勉強を頑張ってくれて、一緒に英会話をするのが毎日楽しかったです。皆さんからいたいお別れのメッセージを宝物として大切にしています。

皆さんからのまごころをいただき、鶴田で過ごした素敵な時間が本当にありがとうございました。大変お世話になりました。町民や役場の皆さんの優しさは一生忘れません。

鶴田町で3年間過ごせて、ほんとうにうれしくて、自分も成長できましたと感じています。本当は離れないですが、これから東京で働き、都会での生活にもう一回挑戦します。これから頑張っていきたいと思っていますがやっぱり田舎町のほうがいいですよね！

*Emily Wathen*

オレと弟が子供の頃、祖母の家さ行って祖母が料理を作っている間、小さな白黒テレビの前さ座って「となりのトトロ」を見てました。わんどの名字のトタローに似てらのがおもしろくて50回くらいは見ました。

トトロの世界観に影響を受け、オレは日本の田舎さ住みたいと思うようになり、幸運にもその夢が叶って鶴田町にCIRとして来ることができました。

初めは日本語も津軽弁も話せねがつたけど、みんながオレを受け入れてくれたはんで、ありのままの自分で居られました。ありがとうございます。

これは文化交流です。オレがみんなから色々学んだように、みんなもオレから学んでほしいと思います。

残念だばって新型コロナウイルスのせいで、わんどは思つたよりも会えなかつたけど、幸いにもオレはまた学校さ行けたし、送別会までしてもらいました。みんなから貰つた思い出と、別れの手紙は永遠にオレの心に残るものさなりました。

アメリカに帰る理由は、今年弟に息子が生まれ、その子の相談相手なつてくれと頼まひだはんでです。その後は両親と1週間位ボルトガルさ行ってがら、1人で3ヶ月ほどモロッコさ旅しに行く予定です。小さい頃からずつと地中海さも行ってみてがつたはんで、そこに行くのも今から楽しみです。

オレは温泉や中華ざるが大好きです。

世界中の色んな国さも津軽人みたいに優しい人たちがいることを願っています。

5年後、10年後にまた鶴田町に戻って来ればいいなと思つてます。だはんてオレはこれからも日本語と津軽弁の勉強を続けるつもりです。

しばらく会えなくなるばって、その時が来るまで、へばな。

*Maxwell Totaro*